

【台湾魅力発信】 台湾観光協会・葉菊蘭会長 特別インタビュー

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所
総務室主任 寺山 学

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所は、交通部長や客家委員会主任委員（いずれも大臣級）など要職を歴任し、現在は台湾観光協会の会長である葉菊蘭会長に日本人に伝えたい台湾の魅力についてインタビューを行いました。先月号の「客家文化の魅力」に引き続き、今月は台湾の少しディープな魅力についてお話を伺いました。

インタビュー実施日：2018年1月25日

インタビュー実施場所：台湾観光協会

インタビュアー：公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所総務室主任・寺山学

＜葉菊蘭氏 略歴＞

1949年2月13日生まれ、苗栗県銅鑼郷出身、輔仁大学法律学部卒

主な経歴：交通部長（2000-2002）、客家委員会主任委員（2002-2004）、行政院副院長（2004-2005）、高雄市代理市長（2005-2006）、總統府秘書長（2007-2008）、台湾観光協会会長（2017-現在）



注目される台湾コーヒー

（寺山）葉会長はコーヒーがとても好きだと聞いておりますが、最近台湾産コーヒーがますます注目を集めています。台湾コーヒーの魅力について紹介頂けますか。

（葉会長）私自身コーヒーの専門家というわけではありませんが、コーヒーを飲むのがとても好きです。台湾コーヒーの有名なものの一つに「東山珈琲」という銘柄があります。東山珈琲は台南の關子嶺温泉より更に先に進んでいったところが産地ですが、日本統治時代になってコーヒーが生産されるようになりました。近年、若者世代を中心にコーヒー文化が広まったことを受け、現地の農家が積極的に生産を進めています。

また、屏東県の原住民族が暮らす徳文部落で作られる「徳文咖啡」もおすすりめです。この「徳文咖啡」も日本統治時代に生産が始まったものです。一時、生産中止となった時期もありましたが、政府からの補助を受け、近年栽培が再開されています。また、台東や苗栗にもおいしいコーヒーがあります。機会があったら是非飲んでみてください。台湾コーヒーは、より多くの日本の方に体験して頂きたい台湾の「美味」の一つです。

はずせない、台湾の温泉

（寺山）次に、台湾の温泉についてお聞きしたいと思います。日本でも台湾の旅行関連雑誌等でよく台湾の温泉の特集記事が掲載されるようになりました。



東山珈琲の実（東山農會提供）



蘇澳冷泉（台灣觀光協會提供）

葉会長のお薦めの温泉として何処がありますか。

（葉会長）私も温泉が好きで、よく行きます。台湾には烏来の美人湯や台南市關仔嶺の泥温泉など、各地に様々な特色ある温泉があります。屏東県墾丁の牡丹というところには「旭海温泉」という温泉がありますが、この温泉も日本統治時代に作られたもので、当時は牡丹温泉と呼ばれていました。また、宜蘭の礁溪温泉が有名で、宜蘭南部の蘇澳鎮には冷泉もあります。

（寺山）日本人にとって冷泉はあまり馴染みがないと思いますが、冷泉も非常に良いですね。蘇



北埔冷泉（筆者撮影）



烏来（筆者撮影）

澳の他に、新竹県の北埔にも冷泉がありますよね。

（葉会長）日本では温泉は温かいものというイメージが強いと思いますが、暑い台湾では冷泉もとても親しまれています。また、海底温泉もお薦めです。緑島にある海底温泉（「朝日温泉」）は世界レベルの温泉です。緑島の夕日も有名なので、緑島に足を運んだ際にはぜひ夕日も見ていただきたいです。そのほかにも、苗栗県の泰安温泉に浸ければ全身すべすべになり、まるでクリームを塗ったかのような肌触りになります。また、台北から近い陽明山にも温泉がありますが、陽明山のお湯には鉄分が多く含まれており、筋肉痛に効果があります。また、美しさを求めるのであれば炭酸の温泉に浸かると効果が高いです。このように泉質から温泉を選ぶのも面白いですね。

今も大切に残されている日本統治時代の建物

（寺山）最近注目を集める大稻埕など、台湾では日本統治時代の建物を活用して新たな文化の発信拠点にする「リノベーション」が活発に行われています。会長がお薦めする日本統治時代の建築物について教えてください。

（葉会長）まずは私も以前訪れたことのある桃園市大溪からご紹介しましょう。一つ目はとても荘厳な「武徳殿」です。当時は剣道や柔道などのいわゆる「武徳」を学ぶ場所として使われていた場所で、現在は台湾の文化資産になっています。大溪以外に、台南や高雄などにも残っており、大切に保存されています。また、桃園市大溪の中正公園内には去年、日本統治時代に造られた土俵を復元した相撲場も修復が完成しています。

（寺山）相撲場の修復落成式には鄭文燦・桃園市長も参加するなど、大変な注目を集めていました。

（葉会長）次は花蓮についてご紹介したいと思います。花蓮にも多くの日本統治時代の建物が残されています。まずは吉安郷にある「慶修院」です。ここはかつての日本人移民村である吉野村があった場所であり、徳島県から多くの移民がやってきたことでも有名です。四国には八十八か所の寺院をめぐるお遍路がありますが、この慶修院にはその八十八か所霊場を模した石碑が設置されています。次に「松園別館」です。ここは別名「花蓮港陸軍兵事部」とも呼ばれ、当時日本の軍事を指揮する場所としての役割を担っていました。また、当時は神風特攻隊も出征前にここに宿泊していました。正に歴史を肌で感じることのできる場所です。

台南にも数多くの統治時代の建物が残されています。有名な場所のひとつが台南市麻豆区にある「総爺国際芸術文化センター」です。ここは元々日本統治時代の1911年に建てられた製糖工場があった場所で、約100年間製糖業が麻豆の重要な産業として盛んに行われていました。現在は芸術文化センターとして生まれ変わり、多くの人々に



大溪の土俵（筆者撮影）



慶修院（筆者撮影）

親しまれています。

南部・高雄の魅力について

（葉会長）私はかつて高雄市の代理市長を務めていたこともあり、高雄に対しては特別な思い入れがあります。高雄では近年魅力的なスポットが次々と誕生しています。たとえば文化発信の場所として注目を集めている「駁二芸術特区」は、日本の小樽倉庫の保全方法からヒントを得て、現在の形に生まれ変わりました。一時は保存せず撤去するという声も上がりましたが、リノベーションが完成し、現在人気スポットになったという話を聞いて大変嬉しく感じています。また、哈瑪星エ



高雄ライトレール（筆者撮影）

リアもおすすめです。「哈瑪星（はません）」の呼び名は、当時の高雄駅から延びた2本の貨物支線を日本人が「濱線」（はません）と俗称するようになったことが由来となっています。このエリアには日本統治時代の建物が多く残っていることも特徴です。最近の高雄市の発展は目を見張るものがあり、ライトレールも開通し、交通も益々便利になっています。高雄は現在最も発展を続けている都市の一つであり、日本の皆様には是非その躍動感も体験して欲しいところです。

葉会長の考える台湾の魅力とは

（葉会長）台湾の特別なところは、淡水で海を見た後、車で30分もしないうちに陽明山に到着し



海と山の近さが魅力（筆者撮影）

山の上を楽しむことができる、また嘉義の海から高速で約2時間で阿里山に着いてしまうという海と山が非常に近いという点にあります。

日本の方に馴染みがあるのは、やはり台北が中心という気がします。でも、実際には台北以外にも台湾には美しい場所が数多くあります。交通も便利になっていますし、現地の人に道を聞けば、必ず優しく道を教えてくれます。台湾の人々には海外から来た方に対して、「台湾に来てくれてありがとう」という感謝の気持ちでおもてなしをする心があります。ぜひ、日本の皆様にはちょっと「ディープな台湾」を楽しんで頂けたらと思います。

（寺山）葉会長、貴重なお話をどうもありがとうございました。



～台湾観光月刊～

台湾観光協会が毎月発行している「台湾観光月刊」には台湾をより楽しむための情報が満載です。ネット上での閲覧も可能です。

QRコードはこちら→

